オール甲賀で安心安全なまちへ

滋賀県初となるセーフコミュニティの国際認証を取得し、1年を迎えたことから、2月11日にセーフコミュニティ対策委員会等の1年間の取り組み成果や課題、今後の方向性についての報告会が開催されました。

日常生活に潜む危険から大切な命や身体を守るため、セーフコミュニティの取り組みがオール甲賀で広がりを見せています。

セーフコミュニティの輪を広げる

市が進めているセーフコミュニティとは、科学的な根拠をもとに、まちぐるみで事故やけがの対策に取り組み、より安心安全なまちをつくる仕組みです。

「自殺の予防」「交通安全」「高齢者の安全」「災害被害の防止」「子どもの安全」の5つのテーマに市民の皆さんで組織された対策委員会が活動を展開してきました。

【自殺の予防】

地域や職場で発せられる自殺のサインに気付き、声をかけ、一緒に考えることが支援につながります。対策委員会では、相談窓口をチラシやポスターで周知し、企業に啓発DVDを配置しました。また、支援者となるゲートキーパー養成講座を開催し、これまで市内企業では15社409人が受講しました。

【交通安全】

市内の事故多発地点を市民に周知するため、チラシを作成して全戸に配布しました。夕暮れ時や夜間時に高齢者の事故が多いことから、反射材や自転車用セーフティライトの配布を行いました。セーフコミュニティの取り組み以来、交通事故での負傷者数は減少傾向にあります。しかし、死者数はなかなか減らないことが検証されています。

【高齢者の安全】

転倒は救急搬送の中でも高い割合を占めており、特に高齢者になると身体機能等の低下等により、転倒のリスクは高くなります。

65歳以上の転倒が自宅で多く発生していることに着目し、チェックリストによる室内の転倒予防の啓発を行った結果、約3割の方に自宅内の危険箇所の改善がみられました。

【子どもの安全】

自転車安全教室、ネットトラブルを防ぐ研修、子育て情報の発信などの活動が展開されました。昨年4月に開設した子育て支援ポータルサイト「こうか子育て応援ネット」では、月ごとのアクセス数が徐々に増加しています。安全で安心な子育て情報の発信をするとともに、家庭や地域、学校などとの連携した取り組みが必要であるとの方向性が示されました。

【災害被害の防止】

区・自治会や自治振興会と連携しながら、個人の防災・減災意識の向上と地域の防災活動の活性化に取り組みました。自主防災活動への機運が高まりつつありますが、組織率は48・7%と低く、地域の防災リーダーの育成が課題とされました。また、自助の大切さを知ってもらうため、家具転倒防止や防災備蓄などの啓発活動も行われました。

地域全体に取り組みの広がりを

セーフコミュニティは、さまざまな安全に対する活動を組み合わせることで、全ての市民にとって有効な取り組みをめざしています。そのためには対策委員会の活動を効果的・効率的に継続していくことに加えて、地域や各種団体、市民皆さんへの普及・拡大が必要です。

市民の安心安全を確保することは、市が行うまちづくりの基礎となり全ての施策の前提になります。セーフコミュニティで培った市民皆さんとの連携をあらゆる分野で生かしながら、市民一人ひとりが暮らしに豊かさや幸福を実感できるまちづくりを進めていきます。

セーフコミュニティの輪がさらに広がり、安心安全なまちづくりに向け多くの市民の皆さんが活動に参画されることが期待されています。

1 セーフコミュニティ活動報告会全体説明
2 岩上地域自転車通学路体験
3 柏木小学校交通安全マップ作成
4 モデル地区の大原市場で高齢者の靴に反射材の貼付
5 南区での自主防災活動
6 ガールスカウトによる自殺予防の街頭啓発